

令和元年度 第1回八代市文化ホール等あり方検討会 検討会会議録

開催日時	令和2年2月14日(金) 10:00~12:00
開催場所	代陽コミュニティーセンター会議室、厚生会館ホール

■ 出席委員

会長	本田 恵介	委員	岩崎 布見子	委員	多田 満
副会長	丁畑 幸美	委員	柏 昭子	委員	森山 学
委員	石本 愛	委員	川村 健治		

■ 欠席委員

委員	中山 英朗	水本 和人
----	-------	-------

■ 市出席者

職	氏名	役職	氏名
副市長	田中 浩二	厚生会館館長	林田 安夫
経済文化交流部次長	岩崎 和也	厚生会館主査	坂梨 英司
文化振興課長	沖田 丈房	総合支援担当	水本 慎吾
文化振興課主幹兼課長補佐	山崎 撰		

■ その他の出席 なし

■ 傍聴者 なし

■ 協議事項

審議事項

- (1) 八代市文化ホール等あり方検討会について
 - ① 検討会の目的や協議事項
 - ② 検討会の今後の予定
- (2) 八代市の文化ホール等の現状について
 - ① 各施設のハード（建物や設備）の状況
 - ② 各施設の利用等の状況
 - ③ 各施設の自主文化事業の状況
- (3) 市民アンケートの実施について
 - ① アンケートの実施時期及び方法等
 - ② アンケート案の検討

その他

- (1) 委員報酬等の事務手続きについて

厚生会館ホール現場視察

■ 会議録（要約版）

1. 開会
2. 委嘱場交付
3. あいさつ（副市長）
4. 委員紹介
5. 会長及び副会長選出
会長に本田恵介氏、副会長に丁畑幸美氏を選出。
6. 会長・副会長あいさつ

議事

(1) 八代市文化ホール等あり方検討会について

- ① 検討会の目的や協議事項
- ② 検討会の今後の予定

事務局から別添資料により説明、各委員の考えや思いを意見として頂いた

〈委員〉

ハード面、利用に関する事とということで施設にいらっしゃる事務方、管理運営者並びに舞台技術スタッフの育成、そういったことが少し弱いのかなという気がするのでソフト面も検討の課題にされたらいかがかと思う。

〈事務局〉

市が行う自主文化事業をソフト面ととらえていたが管理運営も含めて舞台技術のスタッフ育成とかの問題もあるかと思う。皆様のご意見を伺いながら関係資料をまとめる形でご意見を伺えるような形にさせていただきたい。

〈委員〉

ホールスタッフにいろいろな企画提案ができる方がいるのが望ましいと思うが指定管理者制度が始まってそこが弱くなっているホールが全国的にある。各ホールを愛するスタッフとそのホールにすることが大事。そういった人材育成、舞台技術とはまた異なるがそのような環境整備もご検討いただければ。

〈委員〉

直営だと2年3年で人が変わってしまい経験の蓄積や専門性の追求が果たせない。

ただ指定管理者制度自体が国も含めて自治体も財政的に厳しくなる中でいわば予算が文化を支えるホールスタッフやハード面も含めてどんどんコストカットされているという実態もある。そういう中で今後八代市としてその4つの施設をどういう方向で運営していくのか、この辺りの議論も八代の方で議論していくことだろうとは思う。ハードもちろん重要だがソフト面それから人材特に人材育成は重要なポイントになると思う。

〈委員〉

自主文化事業など大変な努力をされて売っている。

ボランティア的な存在、友の会的なものを4つの共通のシステムとして作って、技術面に関してもホールスタッフに関してもボランティアを募って取り組んでいくとより連携が深まって、ホールの運営というのも、あとチケットの販売も含めてですね、自主文化事業の場合、効率的にできるんじゃないかと思う。また技術スタッフ、ホールスタッフなど単に好きな人だけ集めるということではなく、音響的な技能士でせめて3級の舞台機構調整技能士を取れるくらいの講座とかをやっていたら取ってもらうことによって、ホールとか舞台技術に対する愛着も深まると思う。

〈委員〉

照明・音響に関してもそれぞれこれは国家資格ではないが専門の認定がある。また一方では非常に危険性の高い場所ではあるので専門家が運営するというのは最低限必要なことと思う。

〈委員〉

市のスタッフが職人もしなさい、あれもしなさいというのは無理だと思う。一般の人が会館を利用しようと言ったときにそこにソフトに携わってもらうサービス業のようなものなのでチケット販売とか、もっと郷土愛などが強い人が携わってくださると自然といくと思う。

〈委員〉

サービス業なので利用者の方、地域の方にどれだけ喜んでいただけるか満足していただけるかということはこういうホールに勤めている人間としては一番意識しなければならない。技術は持っていても優しくすることはできる。研修は公立文化施設協議会も行っている。

他のホールでどういう日頃働きぶりをしているのか情報交換する中で足りないところを学んでいき少しずつ良くなることを期待している。

〈委員〉

一方で舞台の設備もどんどんアナログからデジタルに変わって行ってパソコンで舞台装置を昇降したりと日々変化しているので受け入れていかざるを得ない。そのために操作ができないことから、この世界からだんだん退いて行く技術者も現実としてある。

〈委員〉

デジタルになろうが、結局それぞれの舞台も機構も音響もなんですけど本当の基本を知ってないといけない。温故知新ということでやはり若い人は年を召した人に学ぶべきだし、年寄りも若い人から学ぶことはたくさんあると思う。最新最先端に関しては基本的なことは押さえておかないといけない。

〈委員〉

パトリア千丁の方公民館施設になった時点でピアノの扱い方すらちょっとわかってらっしゃらなかったっていうのがあって利用する方としては愕然とした。

異動はあるので仕方がないが引継ぎで研修などはあるのか。申し送りはあると思うが最低限の研修はやっているのか。

〈事務局〉

研修というのまではしていないと思う。本当ならば道具とか特に大事なものであり、安全性の問題もあるので、舞台技術の専門のスタッフにほとんどお任せしているので職員が実際に舞台に携わるというのはあまりないのでそこでうまく引継ぎができないとか確かにご不満の通りであり改善は必要かと思う。

〈会長〉

次に協議事項（２）の文化ホール等の現状と課題について説明をお願いします。

（２）八代市の文化ホール等の現状について

- ①各施設のハード（建物や設備）の状況
- ②各施設の利用等の状況
- ③各施設の自主文化事業の状況

〈委員〉

建設の文化面の観点で言うと、厚生会館は、建築家の芦原信義さんが設計され、鏡文化センターは、黒川紀章さんの事務所が設計されている。著名な建築家の設計という点も文化面でも重要である。

〈委員〉

厚生会館は、大丈夫か？

〈委員〉

耐震診断がしてあると思うので確認していただければよいと思う。音響も調査されればよいと思う。

〈委員〉

県内でも 1000 席を超える施設はほとんどなく、県南では人吉カルチャーパレス、水俣市文化会館そ

の次の規模。

〈委員〉

収益を上げるには500席では上がらない。1,000人収容でないと収益は上がらない。この検討会は厚生会館を存続させるための検討会ととらえてよいのか。

〈事務局〉

本日のあり方検討委員会はソフト事業をどうしたら市民の文化レベルの向上になるか、どうソフト事業を展開していく必要があるか議論していただき、そのソフト事業に見合う八代市の財政規模に見合った施設の数や質が必要になってくる。

ここでは存続・廃止の話ではなく、まずは、ソフト事業から議論していただいてそのあと施設の在り方・方向性を設定していくと考えている。いろんな意見があると思うが最後に委員会の意見として報告していただければと思うので本日は現状や問題点・課題などを認識していただき、次回以降の会議の中で議論いただければと思う。

〈委員〉

厚生会館別館が解体され民族伝統芸能伝承館が建設されれば、新たな街の繋がりが生まれると思う。

〈委員〉

ぜひ伝承館が完成したらこけら落としを厚生会館でできたらと思う。大改修は無理と思うので修理だけしながら使用できれば。

八千代座とか観劇は、明治時代の建物で修理だけしてアンティークでいいから価値のあるように建物を残していく方法もあると思う。

〈委員〉

歴史的景観の地。お城跡もあって厚生会館もあって昭和の近代建設の大事な昭和の遺産。

〈委員〉

自主文化事業はあるが八代の文化レベルは非常に低い。高度な文化を持ってきても市民が目を向けない。市全体として文化レベルを向上させるよう学校教育も含めてやっていかないといけない。良いものが八代を飛び越えて人吉に沢山行っている。ソフト面は八代は興味がないというのが現状。ハード面には飛びつくけどソフト面は敬遠するのが昔からの流れ。

厚生会館では、自主文化事業を民間でも行っている。もちろん審査はあるが、共催でやっている。ホールは使用料を免除し運営等は民間で事業を行うべき。あったかハートや宮嶋財団のミュージカルなどソフト面を民間で行い意識向上のために文化レベルの向上のためにやるのでホール使用料を免除するとよい。とっかかりはあるのでそれを広げていけばよい。満席にこだわると良いことはない。

例えば、ブックフェスなどビッグサイトで行うと何万人と来る。八代でもある本屋さんが、ハーモニーホールで行われたが、何千人もの若者が来た。若者の文化を取り入れてホールもそういったものを取り入れて地元から発信できるホールなり会館なりの位置づけを考えていった方がよい。

大きな舞台で本物を見て楽しむという若者文化を育てていったらホールの利用率も上がっていく。

(3) 市民アンケートの実施について

①アンケートの実施時期及び方法等

②アンケート案の検討

〈委員〉

このアンケートの対象とか配布の仕方はどういった形か。

〈事務局〉

配布は郵送で返信用の封筒を同封し対象は3000人。八代市在住の市民の方無作為抽出で年代とか地域性も考慮してお送りする。

〈委員〉

このアンケートの中に八代以外でのコンサートなどあるかお聞きしていただくと八代市からどれだけ流れているのかわかると思う。

〈委員〉

今後の検討会のスケジュールっていうのがあって、3月いっぱいまでアンケートを取ったら4月にアンケート結果を検討するのはなかなか厳しいスケジュールかなと感じたがいかがか。

〈事務局〉

できるだけ早くまとめたいと思う。

その他

本田会長より国施策に関する資料説明

- 「文化芸術基本法の制定」
- 「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」
 - ・文化に触れる機会の均等的な機会の提供という観点もあり、八代市の取り組みとしてホールのない地域へのソフト面の充実を図るという意識をもって検討に臨んでいただければと思う。
 - ・文化芸術、特に演劇については小中学校では体験する場がなく、スポーツのように地域にクラブがある環境が理想である。

※その後、厚生会館ホール現場視察